

第 2.6 表 黒松内低地帯の主なリニアメントの近傍に認められる断層一覧表

断層 番号	露 頭 に お け る 性 状					記 事	断層露頭スケッチ 図 番 号	
	走 向 ・ 傾 斜	断層の幅 (cm)	変 位 量 (cm)	切 断 す る 地 層	第 四 紀 層 切断の有無			
歌 棄 の リ ニ ア メ ン ト	②4	N 60° E / 70° S E	5	不 明	黒松内層上部層 (Kuvb) 凝 灰 角 礫 岩	不 明	粘土は灰褐色で硬質。破碎帯は平行状の割れ目密集。鏡肌なし。	第 2.1 9 図 (1)
	②7	N 45° W / 65° S W	20	"	黒松内層下部層 (Kltb) 火 山 角 礫 岩	"	粘土は、灰色軟質で砂質。破碎帯は、平行割れ目の密集。粘土の下盤側に鏡肌あり。	第 2.1 9 図 (2)
	②9	N 30° W / 80° N E	1	90	黒松内層下部層 (Klpm) 軽石凝灰岩・火山礫凝灰岩 互層	な し	破碎帯は地層がひきづられ乱れたもの。砂、火山礫を含む。鏡肌なし。この断層のほかに10本の断層があるが、いずれも断層の幅が0.2 cm程度。	第 2.1 9 図 (3)
	③0	N 20° W / 85° N E	110	0	黒松内層下部層 (Kltb) 凝 灰 角 礫 岩	"	粘土は中程度に固結。破碎帯は平行状の割れ目密集。断層の上方延長部は凝灰角礫岩中で消滅。鏡肌あり。	第 2.1 9 図 (4)
白 炭 東 の リ ニ ア メ ン ト	②5	N 10° W / 42° S W	0.5	40	白 炭 層 (Sz) くさり礫・シルト	あ り	道路の切取り法面の反対側に断層は延長せず。粘土は灰白色で、軟質。断層の上方延長部は白炭層内で消滅する。鏡肌あり。条線の方向 N 65° W、40° NW。	第 2.2 0 図 (1)
	②6	N 27° W / 46° S W	0.1	30	白 炭 層 (Sz) くさり礫・シルト	"	断層は露頭下方で明瞭。上部のシルト層で不明瞭。白炭層の上位の火山灰層を切っていない。鏡肌なし。	第 2.2 0 図 (2)
	③1	N 70° W / 80° N E	20	40	白 炭 層 (Sz) 礫・砂・シルト互層	"	破碎帯は、地層の乱れた状態。断層は露頭上方で不明瞭になり、表土直下のくさり礫層、シルト層を切断しない。断層は道路の反対側に延長せず。鏡肌なし。	第 2.2 0 図 (3)
蔵 岱 西 方 の リ ニ ア メ ン ト	④7	N 18° W / 68° N E	13	不 明	ガロ川噴出物層 (Gvb) 火 山 角 礫 岩	不 明	粘土は淡褐色で中程度に固結。鏡肌あり。	第 2.2 2 図 (1)
	④9	N 84° W / 84° S E	1.7	"	ガロ川噴出物層 (Gvb) 安 山 岩	"	粘土は赤褐色で軟質。鏡肌なし。	第 2.2 2 図 (2)
	⑥0	N 32° W / 75° N W	30	"	ガロ川噴出物層 (Gvb) 安 山 岩	"	安山岩中の粘土を伴う断層。	
	⑥1	N 68° W / 72° N E	1.1	"	ガロ川噴出物層 (Gvb) 安 山 岩	"	粘土は褐色で軟質。対岸の露岩への延長は認められない。鏡肌なし。	第 2.2 2 図 (3)

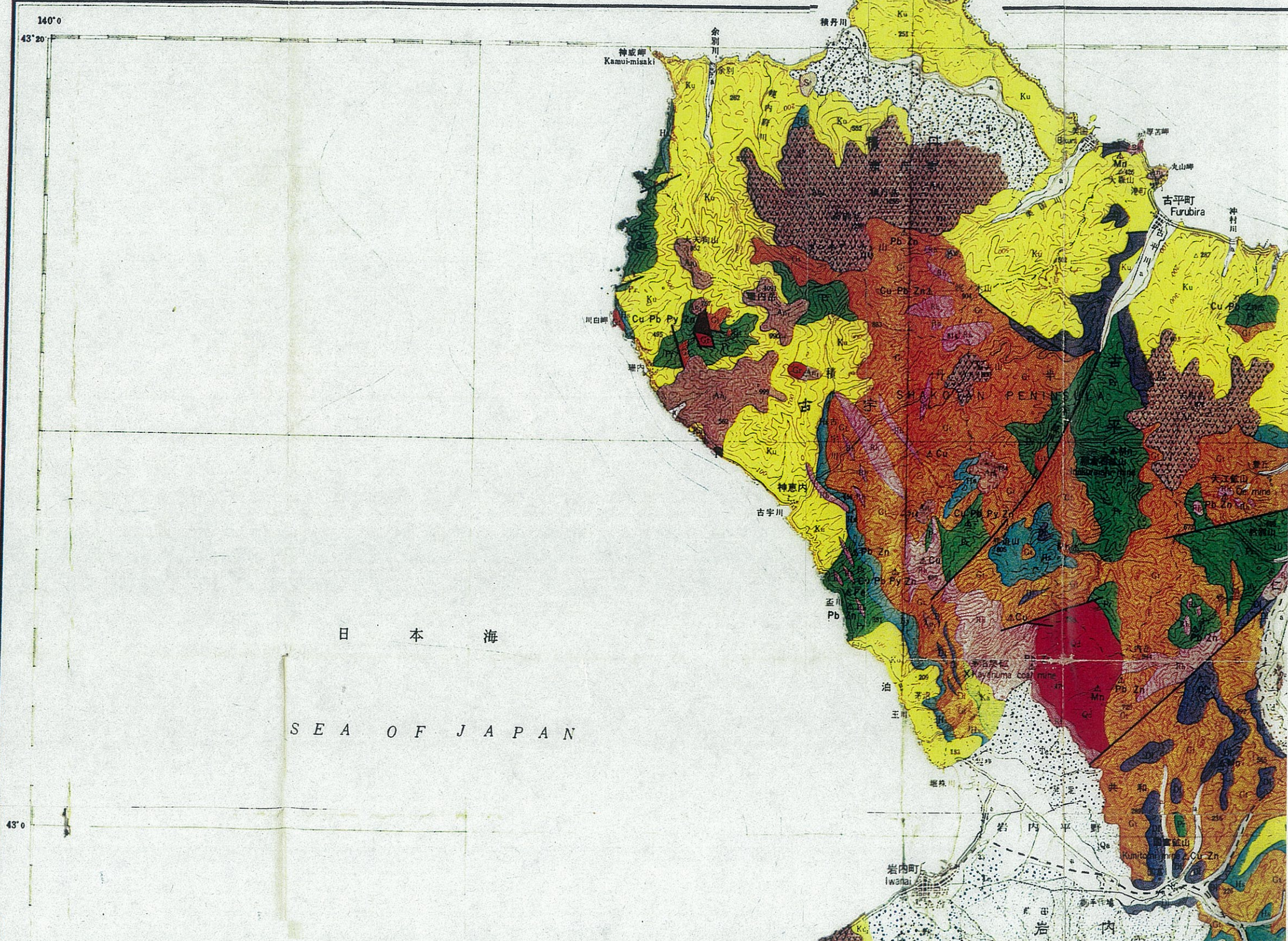
1 : 200,000 地質図 NK-54-20

後志支庁 胆振支庁
地形は国土院発行20万分之1地勢図を基として作図した
測量成果の複製承認番号 昭和40年国地発第903号

岩 内

IWANAI

- | | | | |
|--------------------------|-----------------------------------|--|--|
| 第四紀
Quaternary | 沖積層
Alluvial deposits | | 礫・砂および粘土
Gravel, sand and clay |
| | 火山砕屑物
Volcanic detritus | | 火山灰
Ash |
| | 段丘堆積物層
Terrace deposits | | 礫・砂および粘土
Gravel, sand and clay |
| | 赤井川ローム層
Akaigawa loam deposits | | ローム
Loam |
| 新第三紀
Neogene-tertiary | 第四紀堆積物層
Quaternary deposits | | 礫・砂・粘土・軽石・火山灰・熔結凝灰岩および熔岩
Gravel, sand, clay, pumice, ash, welded tuff and lava |
| | | | 現世火山岩類
Recent volcanic rocks |
| | | | 鮮新世後期-更新世火山岩類
Late pliocene-pleistocene volcanic rocks |
| | | | 第三紀安山岩
Tertiary andesite |
| | | | 矽岩類
Porphyrite |
| | | | 粗粒玄武岩
Dolerite |
| | | | 斑状安山岩
Propylite |
| | | | 流紋岩
Rhyolite |
| | | | 石英閃緑岩
Quartz diorite |
| | | | 花崗岩
Granite |
| | | | 瀬田層
Setana formation
砂岩・礫岩および亜炭
Sandstone, conglomerate and lignite |
| | | | 黒松内層
Kuromatsuna formation
集塊岩・熔岩流・泥岩および砂岩
Agglomerate, lava flow, mudstone and sandstone |
| | | | 八雲層
Yakumo formation
硬質頁岩
Hard shale |
| | | | 訓罫層
Kunui formation
緑色凝灰岩・砂岩および頁岩
Green tuff, sandstone and shale |
| | | | 黒川層
Kurohara formation
礫岩・砂岩・頁岩および石灰岩
Gravel, sandstone, shale and limestone |

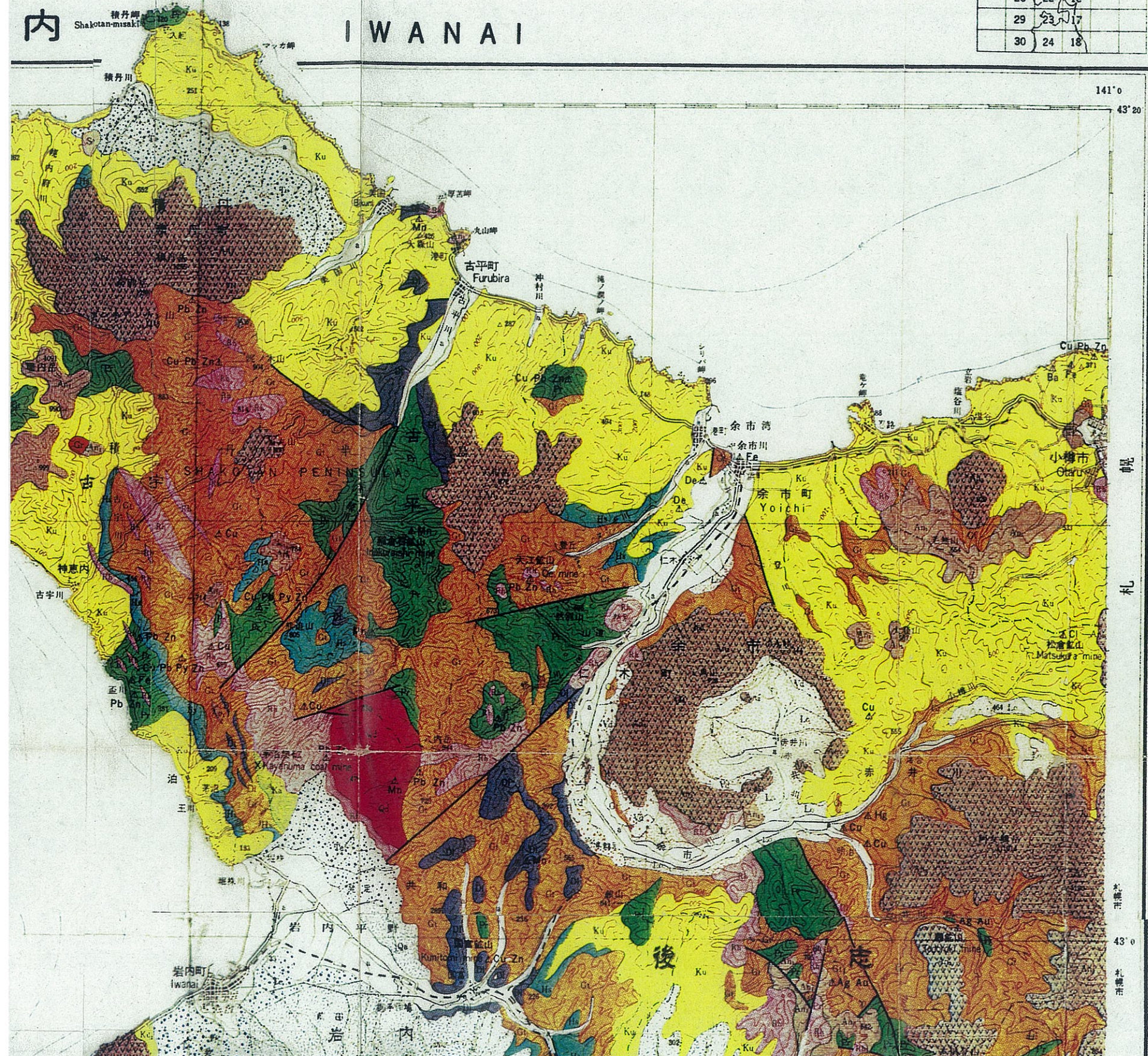


内

IWANAI

NK - 54

	19	13	7	1
	20	14	8	2
27	21	15	9	3
28	22	16		
29	23	17		
30	24	18		



- 断層
Fault
- △ 鉱産地
Mineral deposit
- Au 金
Gold
- Ag 銀
Silver
- Cu 銅
Copper
- Fe 鉄
Iron
- Hg 水銀
Mercury
- Mn マンガン
Manganese
- Pb 鉛
Lead
- Py 黄鉄鉱
Pyrite
- Zn 亜鉛
Zinc
- Ba 重晶石
Barite
- Cl 粘土
Clay
- De 珪藻土
Diatomite
- S 硫黄
Sulphur
- X 石炭
Coal
- 温泉
Hot spring

付記

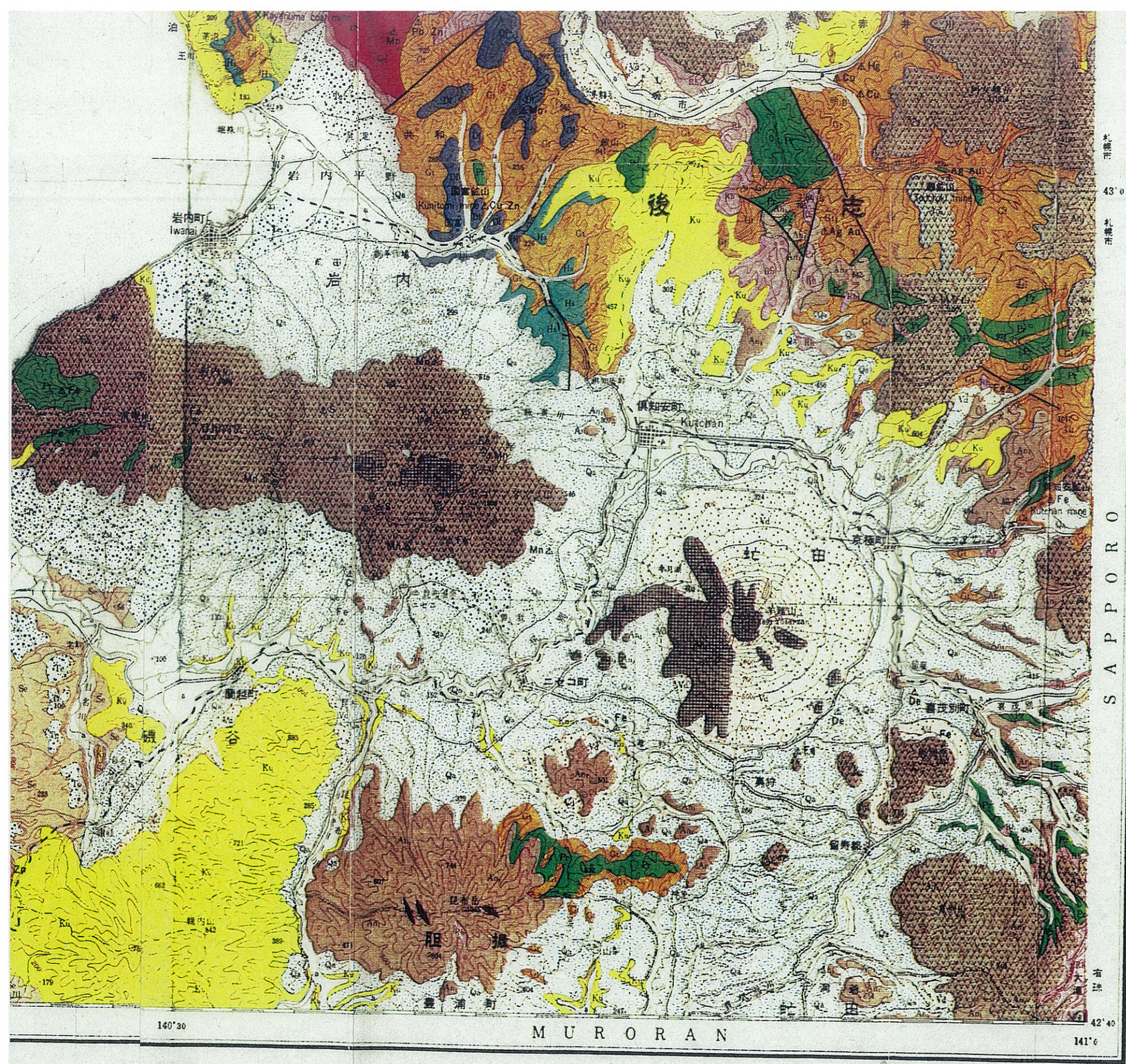
5万分および10万分の1地質図幅による区分。

余別岳	古平 付視武意	小樽西部
	茅沼	仁木
岩内	岩内	伊知安
	狩太	留寿都

1. 引用文献
- 1 天島澄策・古館兼治・陸川正明(1939)：10万分の1地質図幅「寿都」および同説明書、北海道工業試験場
 - 2 根本忠寛(1942)：10万分の1地質図幅「余別岳」および同説明書、北海道工業試験場
 - 3 斉藤正次・上村不二雄・大沢 稔：5万分の1地質図幅「茅沼」および同説明書、北海道開発庁
 - 4 猪木幸男・垣見俊弘(1954)：5万分の1地質図幅「小樽西部」および同説明書、北海道開発庁
 - 5 太田良平・上村不二雄・大沢 稔 1954：5万分の1地質図幅「仁木」および同説明書、北海道開発庁
 - 6 広川 治・村山正郎 1955：5万分の1地質図幅「岩内」および同説明書、地質調査所
 - 7 根本忠寛・村島坤六・上島 宏 1955：5万分の1地質図幅「古平(付視武意)」および同説明書、北海道開発庁
 - 8 土居繁雄・長谷川 潔(1956)：5万分の1地質図幅「伊知安」および同説明書、北海道開発庁
 - 9 斉藤昌之・藤原哲夫・石山昭之・松井公平 1956：5万分の1地質図幅「留寿都」および同説明書、北海道開発庁
 - 10 園原谷盛明・土居繁雄 1961：5万分の1地質図幅「狩太」および同説明書、北海道地下資源調査所
 - 11 成田英吉・河部賢二・河野純一 1965：北海道積丹半島の地質と鉱床、岩誌 vol. 54, no. 6
 - 12 山口昇・秦 光男他 1955：北海道80万分の1地質図「北海道金属・非金属鉱床総覽付区」、地質調査所

2. 1) 黒松内層にカロ川噴出物をも含めた。その地質時代は八雲期の初期より漸棚期まで広範囲にわたるものとする
- 2) 調縫層は茅沼層を除くすべての凝灰岩類他を包括した
- 3) 変形安山岩は地質時代に関係なく、岩質を基にした。なお原岩は考慮しなかつた

p38 3/4



De	珪藻土 Diatomite
S	硫黄 Sulphur
X	石炭 Coal
e	温泉 Hot spring

- 資料「岩内」1961年10月発行の1:200,000地質図幅「岩内」および同説明書、北海道地下資源調査所「20万分の1北海道地質図」
- 成田英吉・岡部賢二・河野純一 1965 : 北海道積丹半島の地質と鉱床、岩鉱 vol. 54, no. 6
 - 山口昇・秦光男他 1955 : 北海道80万分の1地質図、北海道金属・非金属鉱床総覽付図、地質調査所
- 黒松内層にカロ川噴出物をも含めた。その地質時代は八雲期の初期より漸棚期まで広範囲にわたるものとする
 - 調整層は茅沼層を除くすべての凝灰岩類他を包括した
 - 変形安山岩は地質時代に関係なく、岩質を基にした。なお原岩は考慮しなかつた
 - 第四紀堆積物層は段丘堆積物層、赤井川ローム層を除いて全部一括した
 - 茅沼層は道南の夾炭層として有名なもので別にした
 - 火成岩の時代を表現しない
 - 鉱産地は北海道金属・非金属鉱床総覽に依った
 - 積丹半島は成田英吉他に従った。その他は地質図幅に依った

(1967年2月8日記)

著作権所有印刷業発行者

工業技術院地質調査所
札幌市緑川地区印刷株式会社

1968

1:200,000

GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN

Konosuke SUGI, Director
Compiled by Konroku TSUBHIMA in 1966
Supervision of drawing by Gensaburo KUSAFUKA in 1967
Redaction of printing by Ken-ichi TANAKA in 1968
© 1968, Geological Survey of Japan.

岩内
IWANAI
1:200,000
NK - 54 - 20

第 2.1 図 20万分の1地質図幅「岩内」